

視点

『地域に信頼される建設業を目指して(弊社の歩み)』

葵建設株式会社 代表取締役社長

(2006年7月:北海道生産性本部理事・釧路地区支部長就任)

山中 博 (やまなか・ひろし)氏



略歴:昭和23年北海道岩見沢市出身。昭和42年3月美唄工業高等学校卒業。同年4月葵建設株式会社入社。平成14年5月取締役土木部長、平成15年6月常務取締役、平成16年9月専務取締役を歴任し、平成17年8月代表取締役社長に就任、現在に至る。

葵建設の前身は釧路石炭港運で、太平洋炭鉱内の坑内掘進工事を行っていた部門と吸収合併した橋本工作所(本社、小樽)の土木・建築部門を独立させ、1951年に設立された。

事業の中心は公共工事を主体にした土木工事で、現在でも事業の6割あまりを占めている。最近では、北海道横断自動車道の建設工事や、釧路川広域河川改修工事、国際バルク戦略港・衛生管理型漁港などの港湾・漁港工事も手掛けている。

また、長年の漁港関係工事の施工に対して、今年度2度目の水産庁長官表彰を受賞をしている。

建築工事では、釧路市立釧路小学校の新築工事や、市内で初めてとなる免震工法を採用した校舎を完成させた。また、釧路市中央図書館や「湿原の風アリーナ釧路」と名称した釧路根室圏総合体育館といった、代表的な建築工事を手掛けてきている。

当社では、工事の施工に併せて、早くから労働安全に取り組み、1983年から災害の事前予知を目指す独自の「ゼロ災運動」を開始した。1997年には、その取り組みが認められ中央労働災害防止協会「会長賞」を受賞している。また、2001年にはISO9001、2010年には環境マネジメントシステムISO14000の認証を受けている。

経営面では、2007年より経営全体の見直しを行い、5ヵ年計画に着手した。それまでの成長経済を前提とした経営から、マイナス成長にも対応する為根本的な体質改善が急務となった。

そこで初めて、外部コンサルタントを起用して、売上・不採算部門・人員・財務・営業戦略の5部門に亘って再構築した。

また、経営の透明性と健全性を保つため、会計参与(税理士)を設置している。

当社は「施工会社」が原点であることから技術力の向上に力を注いで“人づくり”を進めている。なぜなら、それが最大の営業となるからである。人の採用も、地元の高専や工業高校等から積極的に新卒者を採用している。しかしながら最近では、建設業の担い手不足の状況は当社にも影響している。若手社員の採用定着を図る為、長時間労働の是正等の働き方改革を、積極的に行っているところである。

また、以上に加えて、人材は「宝」といった視点から衛生面での健康診断項目の充実化、40歳以上の職員のPET検査(人間ドック)の実施を行い「健康経営」にも力を入れ衛生面での強化を進めている。

地域貢献としては、最近の出来事として、一昨年のブラックアウトの時に釧路市からの要請にいち早く応え、市内の避難所に現場の発電機を投入したことにより、市より感謝された。この教訓により今年、発電機の自社購入を図り、自社に備えることにより災害時の対応に備えた体制づくりをしている。

最近では自然災害が多発していて、釧路管内は日本海溝・千島海溝周辺地震の予想で大津波が想定されている。当社は既にBCP(事業継続計画)を確立して、毎年全職員が訓練を実施し、有事の備えを構築している。

このような危機意識を先取りした日々の活動が地域建設業者として、地域に貢献できると確信している。